

## 1. 義務教育学校導入検討の背景 ～教育環境の変化と教育現場の現状

### ① 社会情勢

少子高齢化   インターネット技術の普及   人口知能の高度化   グローバル化   働き方改革  
 価値観の多様化、ライフスタイルの変化、人と人との関わりの希薄化（核家族化の進行）

### ② 法律等の改正

H18 教育基本法、H19 学校教育法   ⇨   小中連携強化  
 H27 学校教育法   ⇨   義務教育学校の制度化  
 H29 学習指導要領の改訂   ⇨   学習方法の見直し※  
 ※アクティブラーニングの視点 ～聞くだけの授業からグループワークなどを通じた問題解決へ  
 ※小学校外国語科の新設 など

### ③ 学校現場の対応変化

- ・習熟度別少人数指導の導入、学習支援員の配置、外国語指導助手（ALT）の配置
- ・小学校における教科担任制の導入
- ・ICTを効果的に活用した授業実践（GIGAスクール構想による環境整備※）  
 ※GIGA「Global Innovation Gateway for All」  
 ～全ての児童生徒1人1台のコンピュータと高速ネットワークの整備
- ・コミュニティスクール（CS）の機能拡充

### ④ 岩内町教育の課題

- 学校経営上の課題
- ・学力（全国学力・学習状況調査結果では、全国・全道平均を下回る学力状況）  
 ～家庭学習の不足、スマートフォンやゲーム等による活字離れも影響
  - ・専門性の高い授業が展開できる指導体制の確立
  - ・いじめ、不登校対策 ～中一ギャップ等への対応 など
- 学校施設上の課題
- ・老朽化（40年以上経過）
  - ・教育備品の更新、ICT機器の充実、給食室の機能向上（アレルギー食対応等）
  - ・新しい教育環境への対応 ～プログラミング教育、外国語科への対応を含む
  - ・教職員が働きやすい環境整備 など

## 2. 基本的な考え方

基本構想(R2.3策定)より抜粋

国の教育行政の方向性を踏まえ、本町の教育を取り巻く課題を改善し、めざすべき学校像を実現するために、「**小中一貫教育**」を推進し、**学校形態として「義務教育学校」の導入**を検討します。

基本計画(R2.3策定)より抜粋

急速な社会の変化、情報の複雑化等により、児童生徒を取り巻く教育環境は大きく変化する中、義務教育学校9年間の発達段階を踏まえた**一貫性のある教育活動を推進**し、確かな学力を身につけ、個性や能力を育み、人間性・社会性豊かな子どもを育成する特色ある教育をめざし、**施設一体型義務教育学校の導入**を目指します。

義務教育学校**9年間の連続性を確保**し、教育目標達成のため、児童生徒が互いに切磋琢磨する教育を推進し、保護者や地域住民に信頼される学校づくりを行います。

児童生徒数の推移、将来推計		
1980(S55)年	3,787人	
1990(H 2)年	2,250人	>△1,530人 (△40.4%)
2000(H12)年	1,506人	>△ 744人 (△33.1%)
2010(H22)年	1,140人	>△ 366人 (△24.3%)
2020(R 2)年	751人	>△ 389人 (△34.1%)
2026(R 8)年	599人	教育委員会推計



タブレットを用いた授業の様子



学校施設の老朽化